

## ■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長  
白井 巧文



### ■ 埴生地区のみなさん、 ご協力ありがとうございました

埴生漁港の沖合 150m の浅瀬で発見された機雷の処理を巡って、処理を担当する海上自衛隊下関基地隊から、「当日は約 3,500m 沖合に曳航したうえ爆破処理するが、機雷から半径 600m の範囲は、人の立入り禁止の措置を取ってもらいたい」との依頼を受けました。自治会長のご協力をいただきながら、広報に努めるとともに、当日は、朝から職員や消防団が手分けして避難のお願いに回りました。機雷の曳航も順調にいき、立入り禁止の措置の時間は 2 時間足らずでしたが、対象区域のみなさんが全員避難してくださり、予定どおり、5 月 17 日 12 時 15 分、機雷は予定の地点で、約 100m の水柱を立てて、爆破処理されました。

誰しも何かと都合があるものですが、対象区域の 491 人全員が協力してくださったことに改めて感謝するとともに、いざ災害時の自衛力と団結力を見せつけられた思いでした。

5 月 30 日、全国の掃海殉職者追悼式が香川県の金刀比羅宮で執り行われました。毎年案内を受けながらの欠席でしたが、今年は「市民安全」の願掛けと、お礼参りに出かけてきました。

### ■ 山陽オート事業の取り組み

山陽町時代、一時は随分繁盛し、町の財政を支えた時期もあったそうですが、合併前後は赤字続き。最近はさらに深刻な状況になり、オー

トレース業界も同じ傾向にあります。

この 4 月から民間委託業者が、競輪では受託の実績のある日本写真判定株式会社に替わり、売上げが予定額より大きく落ち込んだ場合は、本市と業者間の協議で赤字部分を双方で負担し合うこともあり得ます。民間委託業者に任せ切るのではなく、委託とはいえ、本市と業者の共同事業のつもりで、双方がもっと協力し合う必要があるのではではないか。前受託業者であった日本トーター株式会社との委託終了に当たり、このことを痛感しました。本市の職員の意識を変える必要があるし、市民のみなさんにもさらなるご協力をお願いしたいと思いました。早速、職員の首に付ける名札の紐(ストラップ)を、赤地に白文字で「Let's Go! 山陽オート」と刷り込んだものに変えました。

先日、市役所の大会議室で業者のプレゼンテーションがあり、出席した職員約 100 人が山陽オート事業の再生に向け、業者の構想を聞き、それぞれに何らかのヒントをもらったような気がしました。

本場開催は 1 年のうちわずか 46 日。そうであれば、本場開催のない日には、観覧席・特設ステージ・走路・グリーン広場を、オートレースの枠を超えたイベントの施設として活用する余地はないか。広大な駐車場についても、もっと有効活用を模索すべきではないか…等々。どうか市民のみなさんのご意見もお聞かせください。